

関係人口創出拡大のためのデジタル住民票

デジタル住民票 × 地域マーケティングデータ が循環する、関係人口プラットフォーム

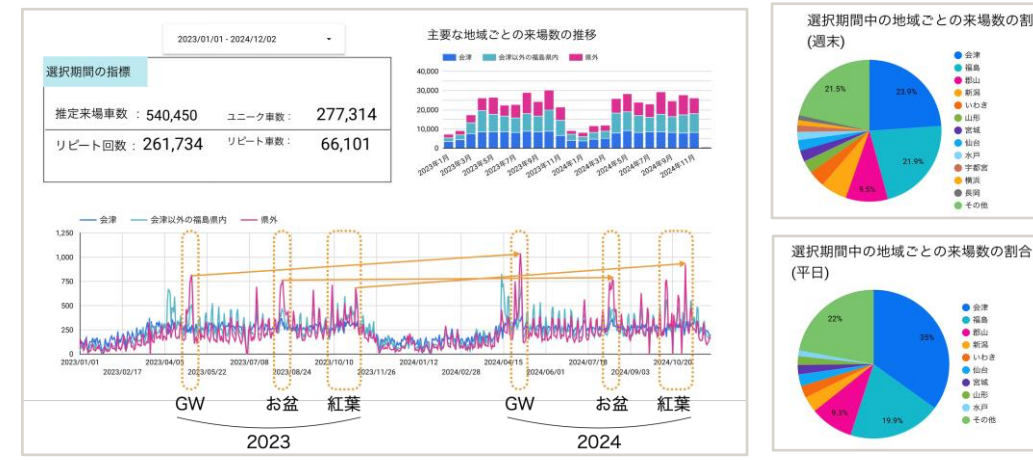
デジタル住民票を支えるデータの土台

デジタル地域通貨のデータ活用



決済・獲得・消費の
データ蓄積・可視化・公開

AIカメラによる来訪者データ計測



車流・人流・属性等の
データ取得・可視化・共有

デジタル住民票サービス

インターネット上で発行される「第二の住民票」— 来訪客の行動を可視化し、貢献に応じて還元



提供価値 — 3つのステップ

1. 接点のデジタル化

2. 行動のデザイン

3. 行動に対する還元

住民ID・QRコード

チェックイン

ミッション・ランク

特典カタログ

デジタル通貨利用状況

公式LINE連携



公式LINE連携

特典カタログと連携・商品/体験コンテンツを掲載

LINE連携による
簡易登録&Push配信

会員機能・CRM
(顧客管理・MA配信)



CRM管理画面

「寄付 → 返礼品」から「関係 → 貢献 → 還元」へ — ふるさと住民登録制度との連携

ふくしまポータル（福島県データ連携基盤）— 共通ID・マイナンバーカード本人確認

データ連携基盤を通じて、県内自治体が共同利用できる仕組み（地域未来交付金TypeV）

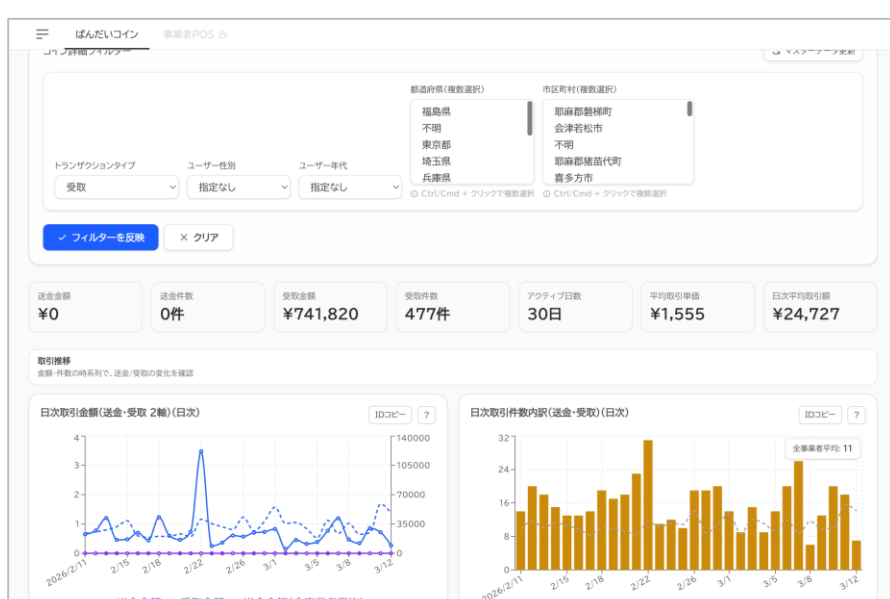
磐梯町

会津若松市

県内自治体（順次拡大）

行動・購買データが共通IDで連携 新商品・サービスを特典カタログへ掲載

地域マーケティングデータプラットフォーム — 収集・可視化・人材育成



車流（来訪元）

人流（属性）

POS（購買）データ

デジタル通貨データ

ふるさと納税データ

Webサイトデータ

SNSデータ

宿泊・移動データ

新商品・サービス開発

クラウド基盤に集約 — CRM・ダッシュボード・生成AI

データ活用人材育成
(DMO・町内事業者)

道の駅・観光施設・商店街等を中核とした 地域マーケティングデータプラットフォーム

来場者・購買・決済データを統合し、地域経済の好循環を「見える化」する

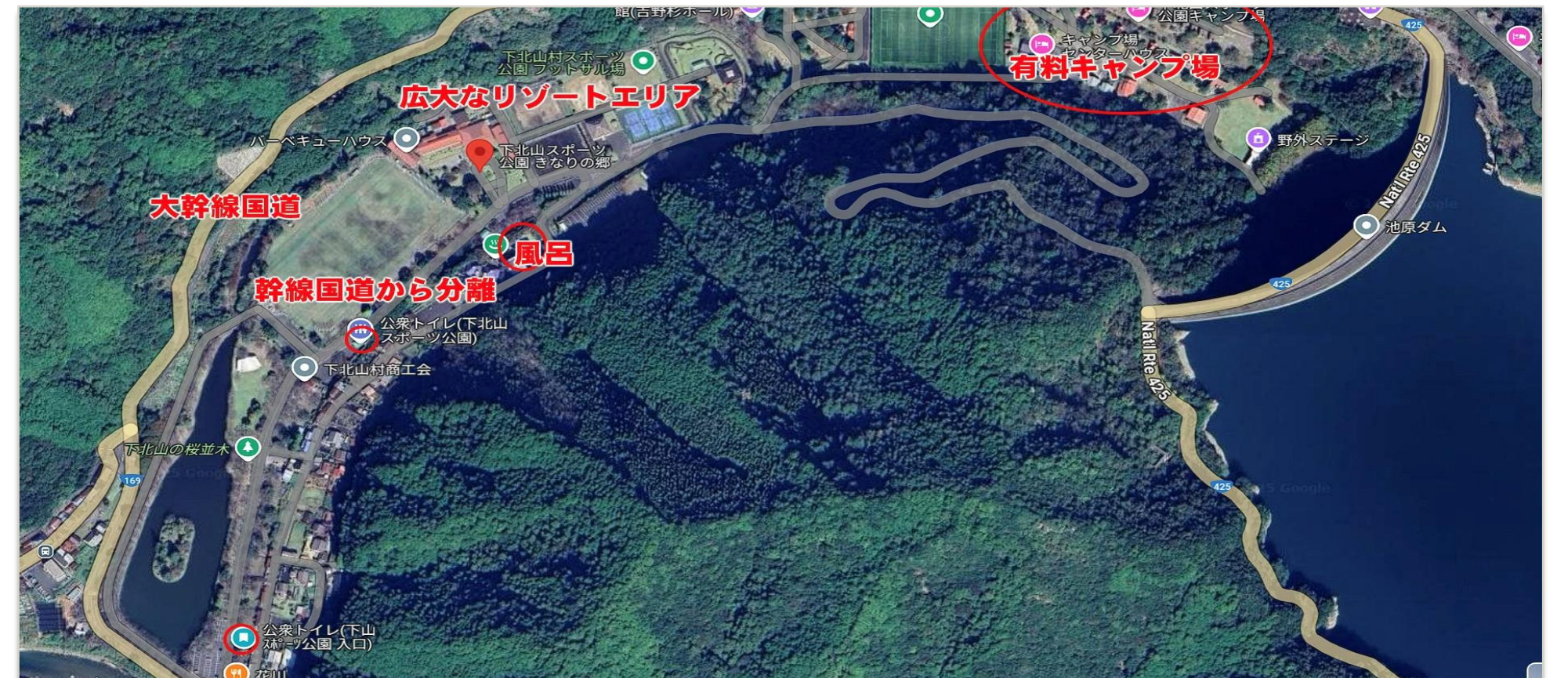


道の駅ばんだい（福島県磐梯町）

約30万台/年
約半数が
リピーター

地元/県内/県外
ナンバーが
1/3ずつ

コロナ禍の
赤字から
売上2倍へ



道の駅きなりの郷 下北山（奈良県下北山村）

どこから？
↓
大阪方面が多い

どうやって？
↓
PVと一致

リニューアル
に合わせて
データ経営へ

2つの施設が抱えていた共通の課題

どこから来ているか
分からない

売れ筋が生産者に
届かない

施策の効果が
測れない

報告が主観的・
感覚的になる

地域マーケティングデータプラットフォーム

AIカメラ/車流(来訪元)

AIカメラ/人流(属性)

POS(購買)データ

デジタル通貨データ

ふるさと納税データ

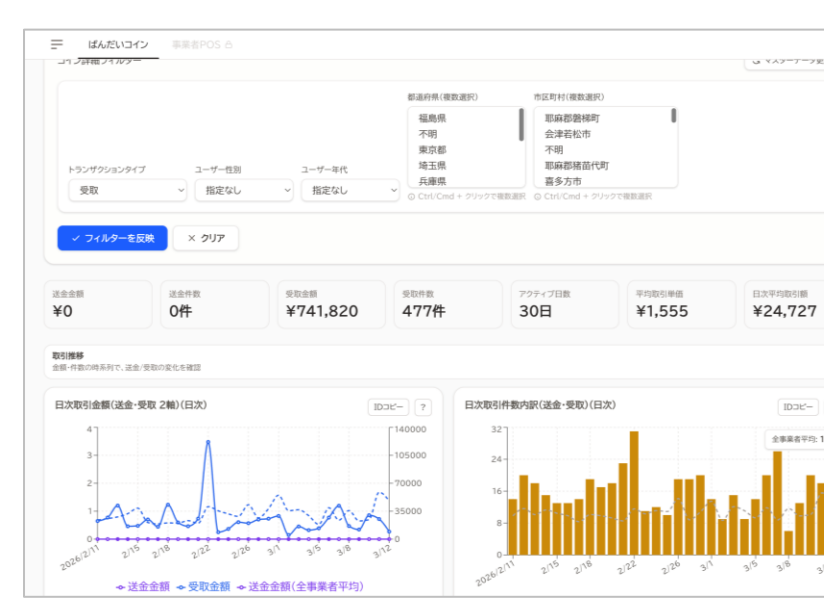
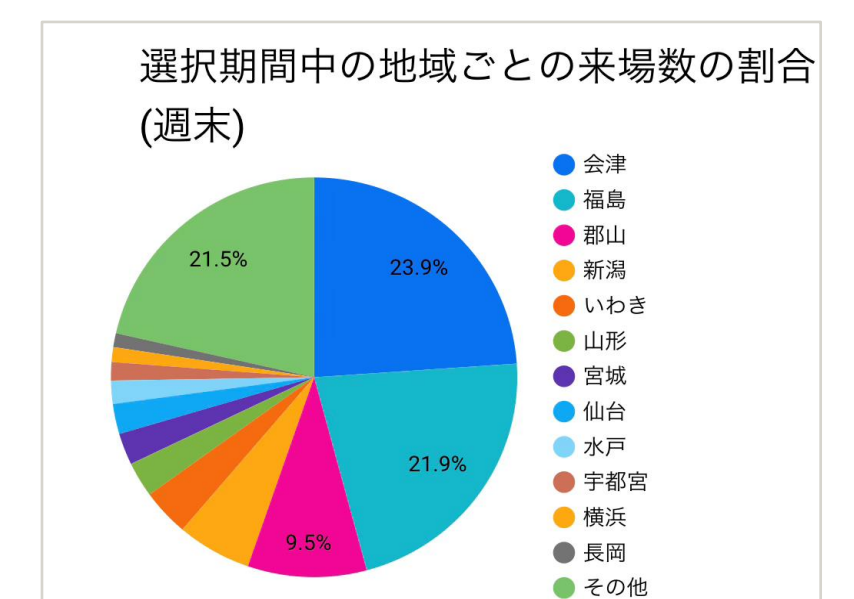
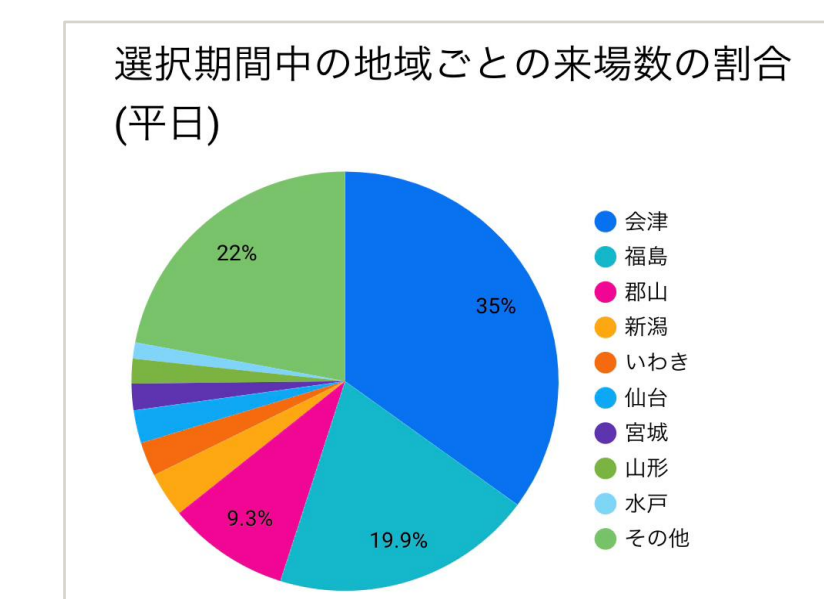
Webサイトデータ

クラウド基盤に
集約・統合

SNSデータ

宿泊・移動データ

生成AI機能を組み込んだダッシュボードによる、人材育成・データドリブン経営・地域GDPの向上



運営事業者
(DX/マーケティング人材育成)

地域生産者
(単価向上/新規参入促進)

自治体
(黒字化/市民&議会説明責任)